

生きたコミュニケーションを楽しむ英会話授業の創造Ⅲ
～社会言語的能力を発揮する子どもの姿の設定～



I	研究の歩みと方向	157
1	研究の歩み	157
2	研究の方向	158
II	本年度の研究	159
1	社会言語的能力を発揮するとは	159
2	社会言語的能力を発揮する子どもの姿の設定	160
(1)	子どもの実態の分析	160
(2)	社会言語的能力を発揮する子どもの姿の設定	162
(3)	社会言語的能力を発揮する子どもの姿の設定の手順と方法	162
III	研究の実際	163
1	実践の基本的な立場	163
2	実践の内容	163
(1)	第3学年「Tomの学校」における実践	163
(2)	第5学年「町に出かけよう」における実践	166
IV	研究の成果と課題	170

「生きたコミュニケーションを楽しむ英会話授業の創造」として、目標設定や方略的能力を高める授業を考えてきた。本年度は「小学校で目指す実践的コミュニケーション能力の基礎はどのような資質・能力か」ということをより具体化するために、「社会言語的能力」に焦点を当て、社会言語的能力を発揮する子どもの姿を明らかにしていく研究を行う。

I 研究の歩みと方向

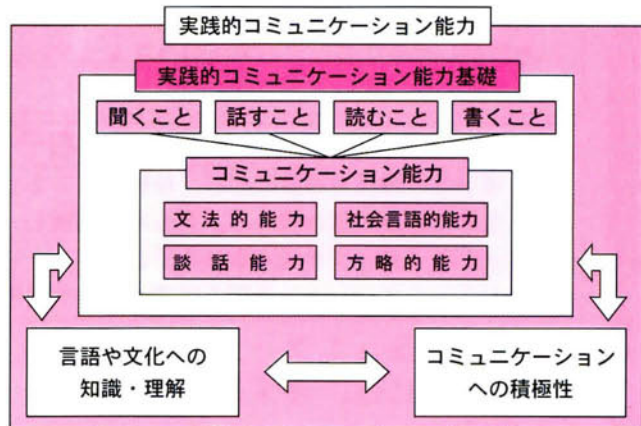
1 研究の歩み

小学校英語教育において培う資質・能力の一つとして方略的能力が分かかってきた。

国際化が進む現在、国際人としての日本人の育成が求められている。その中の一つとして、「英語を使える日本人」を育成することが求められている。そして現在、全国の小学校において、内容や時数に差はあるものの93.6%の学校で英語活動が行われている。今後の動向としては、小学校に英語を教科として導入していくかどうか検討されている状況である。そのためには、現在各学校で行われている英語活動を分析し、小学校で培う資質・能力を明らかにしていく必要がある。

本校では、平成5年から小学校英語教育に関する研究を進め、「英会話の時間」を教育課程に位置付け、全学年毎週1時間実施している。これまでの研究で、本校は、実践的コミュニケーション能力の基礎になるものを四技能とコミュニケーション能力として研究してきた。

平成15年度から「生きたコミュニケーションを楽しむ英会話授業の創造」というテーマの下、1年次は「読むこと・書くこと」も含めた目標を設定した。2年次である昨年度は、言語材料が不足してもコミュニケーションを継続させることができる方略的能力を高める学習内容を設定した。その成果として、授業における方略的能力とそれを発揮する低・中・高学年別の様相を明らかにすることができた。



【図1 実践的コミュニケーション能力】

- | | | |
|-------|----------------|---|
| 方略的能力 | 協力
ストラテジー | ①相手に自分が困っているという合図を送る。 ②言葉に詰まって考え込む。
③ジェスチャーで意図を伝える。 ④絵を用いて尋ねる。
⑤不明瞭な部分を聞き返す。 ⑥自分の理解が正しいか、相手に確かめる。
⑦相手に理解してもらえたかどうか確認する。 ⑧繰り返す。 |
| | 推測
ストラテジー | ⑨分からない表現があっても、文脈から推測する。
⑩分からないところは母語に言い換える。 ⑪造語を使う。 |
| | 言い換え
ストラテジー | ⑫類似の概念を表す語で代用する。そのものの特徴を示すもので言い換える。 |

方略的能力	1・2年	3・4年	5・6年
協力ストラテジー	◎		
推測ストラテジー	△	◎	
言い換えストラテジー			◎
方略的能力を発揮する様相	・ 主に協力ストラテジー（ジェスチャーや絵、実物）を有効に使う。	・ 主に推測ストラテジー（外来語や造語）を有効に使う。 ・ 協力ストラテジーも混ぜ合わせながら使う。	・ 主に推測ストラテジー、言い換えストラテジーを有効に使う。 ・ その場に応じて、いろいろな方略的能力を組み合わせる。

しかし、今後の英語教育の動向や本校の研究を踏まえた上で、次のようなことが課題として挙げられる。

- 小学校で培う実践的コミュニケーション能力の基礎になるものが、コミュニケーション能力の中の方略的能力以外の能力はないかどうかを、さらに研究していくことが必要である。
- 方略的能力を高める学習内容を設定することで、特にALTとの関わりを深める子どもの姿は見られたが、子ども同士でも、もっと関わりをもって授業に取り組む学習活動が必要になる。
- 英語を学ぶために設定されたゲーム活動が、活動の楽しさだけにとどまってしまう、本来のコミュニケーションに必要な英語を学ぶ楽しさまでには至っていないこともある。
- 方略的能力を駆使して子ども自身が作ったスキットにおいて、獲得した言語材料が個々の必要感によって違っていることから、全員が共通の英語に気づき、成就感を味わうまでには至っていないことがある。

2 研究の方向

そこで、上記の課題を解決するために、本校の英会話の目標を再度分析し、必要になる資質・能力を明らかにする研究を進めていくこととする。

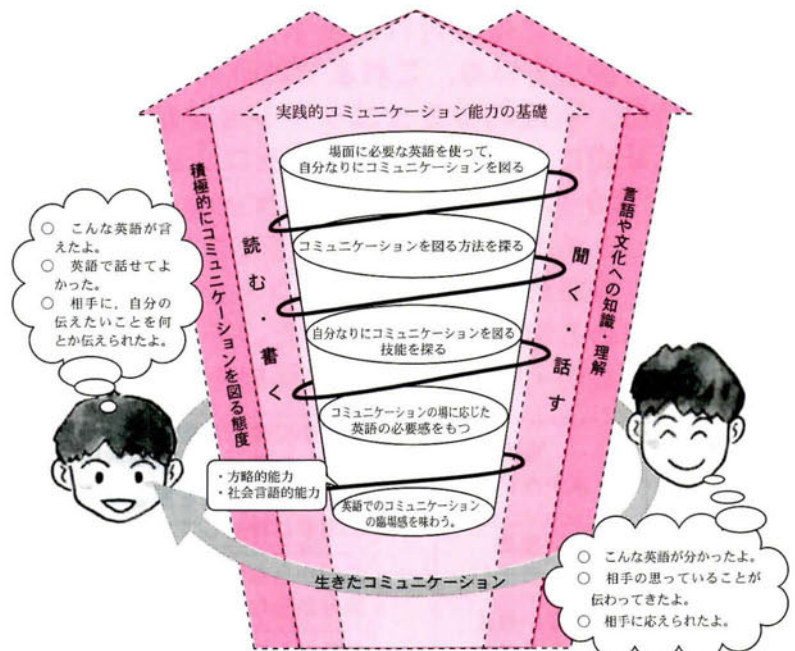
本校の英会話の目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、自ら考え判断し、聞いたり話したりするなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養い、言語や文化に対する理解を深める。

生きたコミュニケーションを楽しむ子どもの姿

- ・ 相手との関係や場面に応じ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする子ども
- ・ 生きた英語に慣れ親しみ、自ら考え判断し、聞いたり話したり読んだり書いたりして、なんとかコミュニケーションを成立させる子ども
- ・ コミュニケーションを図る中で、自分や相手の違いやよさに気づき、協調を図ろうとする子ども

生きたコミュニケーションを図るためには、まず外国の人と積極的にコミュニケーションを図ることが必要になる。さらに、子ども同士でどうすれば英語が通じるかということを考えて技能を高め合うことも必要になる。また、英語を学ぶ楽しさは、ゲーム自体の楽しさとは異なる。「何のために、この英語を必要としているのか」ということを考えながら体験的に活動することで、実感できるものである。このような生きたコミュニケーションを楽しむ授業をつくるためには、目的や相手、場面を意識しながら活動できる資質・能力がこれまで以上に必要になってくる。そこで必要とされる能力が、まさにコミュニケーション能力の中で相手や状況を判断できる能力、つまり「社会言語的能力」と考え、本年度それを発揮する子どもの姿を明らかにしていくことにした。そこで、本年度のサブテーマを次のように設定した。



【図2 生きたコミュニケーションを楽しむ子どもの姿】

生きたコミュニケーションを楽しむ英会話授業の創造Ⅲ ～社会言語的能力を発揮する子どもの姿の設定～

小学校英語教育で培う資質・能力をさらに明らかにするために社会言語能力を基に研究する。

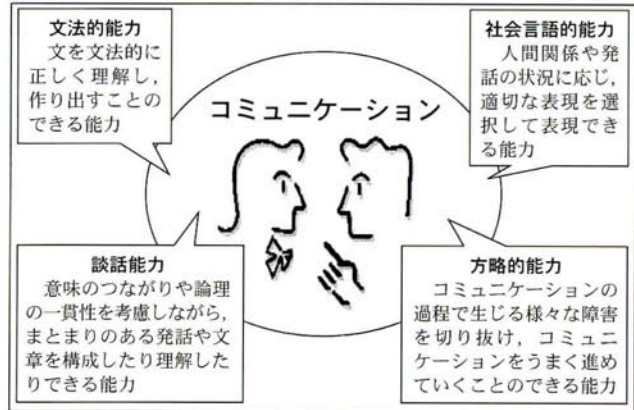
II 本年度の研究

1 社会言語的能力を発揮するとは

コミュニケーションを図る上で重要なことは、単に言語の意味を理解して運用することではなく、多様な話者が多様な状況や人間関係の中で言語を現実を使用できることである。そして、言語についての知識と言語の社会的・機能的働きの両方を身に付けることにより、コミュニケーションを成立させられる。(D.Hymes, 1970)

このコミュニケーションを成立させるために必要な能力が、コミュニケーション能力であり、四つの要素で構成されている。(Canale & Swain, 1980)

その中でも、相手や場面を意識して表現したり理解したりすることには、社会言語的能力が関係している。

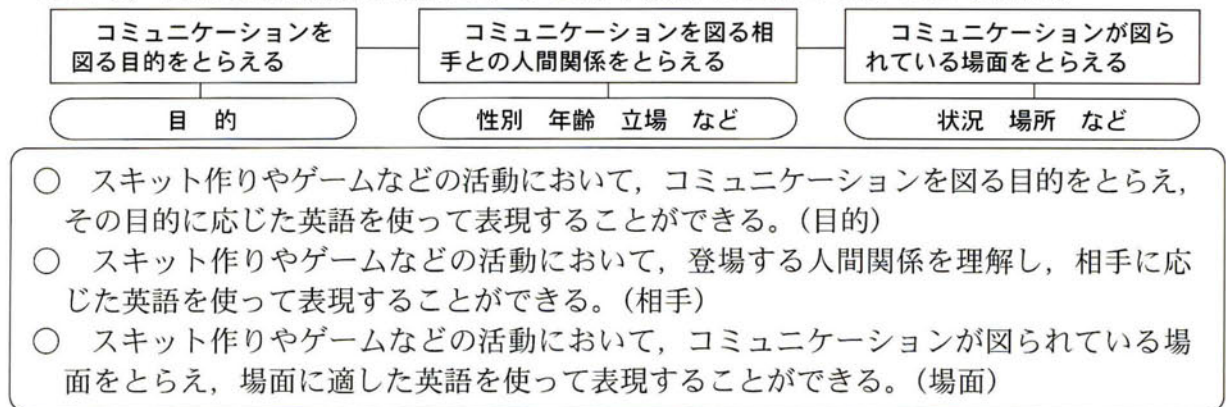


【図3 コミュニケーション能力の四つの構成要素】

社会言語的能力とは、人間関係や発話の状況に応じ、適切な表現を選択して表現できる能力のことである。

英会話の授業は、コミュニケーションが図られる場面に基づき、その場面の中で使用される英語を言語材料として用いて表現したり理解したりする活動を行っている。その際、コミュニケーションが図られる場面や目的、相手との人間関係を明確にとらえることで、その表現される内容が、より適切なものに変化してくる。そうすることで、これまで以上に活動に積極的に取り組み、ALTとのかかわりも増えてくると考える。さらには、友達同士でのコミュニケーションへの意識も高まり、スキット作りなどにおいて、より充実感を味わえる活動を展開できるようになると考える。

そこで、社会言語的能力を発揮するとは本校なりに次のようにとらえた。



【図4 社会言語能力を発揮するとは】

このように社会言語的能力を発揮することは、目的・相手・場面を意識してコミュニケーションを円滑に行うことである。例えば、4年生の「買い物ゲームをしよう」では、「買い物をしよう」という目的から、それに必要な英語の表現を考える。また、「お客」と「店員」というような立場の違いから、「店員に対して丁寧な言い方をしよう」という気持ちをもって“～, please.”の表現を使うことである。



社会言語的能力を発揮するとは、目的・相手・場面を意識してコミュニケーションを図ることである。

2 社会言語的能力を発揮する子どもの姿の設定

(1) 子どもの実態の分析

そこで、前述した社会言語的能力を発揮する子どもの姿を設定するために、現在の子どもの実態を分析することにして、次のような意識調査を行った。

【意識調査項目1】(対象者：1～6年各1学級)

- | | | |
|---|---|--|
| 1 |  | <input type="radio"/> この絵を見て、どんな会話をしていると思いますか。
<input type="radio"/> この絵で次のような会話をしているとしたら、どんな場面だと思いますか。
<input type="radio"/> 外国の人に道を尋ねる時、どんなことに気を付けますか。 |
| 2 |  | <input type="radio"/> 買い物に行ってリンゴが欲しい時、あなたは何と言いますか。
<input type="radio"/> 上のように答えた理由は何ですか。 |
| 3 | | “Excuse me.”をつけてから、話を始めることをどう思いますか。 |
| 4 | | “Yes/ No.”をはっきり言うことを、どう思いますか。 |

1で、低学年は、「本を買いたい」「お店に行こう」「店がある」などの答えに対して、中・高学年になると「～は、どこにありますか。」のような道案内の場面を設定した会話を考えている子どもが多く見られた。

2では、全学年“～, please.”の表現を答えていた。しかし、その理由として、低学年は「欲しいから」に対して、中・高学年は、「欲しい意味を伝えたい」「お店の人をお願いするから」という理由を挙げている。このことは、低学年は、相手や場面というよりもまず、自分の目的を伝えることに意識があると考えた。

3で、中学年では、「いきなりだと失礼」という意見が多かった。高学年では、「相手に気持ちよく」「相手に自分の話を聞いてもらうため」のような相手や状況を考えている。

4で、中学年では、「分かりやすい」「うなずくだけでは伝わらないから」ということで“Yes/ No.”を使うよさを感じていた。高学年では、日本語と比較して、よさや欠点を考えていた。

【意識調査項目2】(対象者：3～6年各1学級)

- | |
|---|
| <input type="radio"/> あなたが話をする時、特に大事にすることは、次のうちどれですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的をはっきりして話したり聞いたりする。 ・ 話す相手の年齢の違いに気を付けて話したり聞いたりする。 ・ 話す相手の男女の違いに気を付けて話したり聞いたりする。 ・ 話す相手の立場を考えて話したり聞いたりする。 ・ 話している時の場所を考えて話したり聞いたりする。 ・ 周りの様子から考えて話したり聞いたりする。 |
|---|

この調査は、3年生以上に調査を行った。その結果、どの学年も、「目的をはっきりして話したり聞いたりすることが大事」という意識をもっている。また、学年が上がるにつれて、相手のことや場面を考えて話したり聞いたりすることを大切に考えていることが分かった。中でも、相手に対して、年齢や男女の違いを考えて話したり聞いたりすることに意識をもち始めるのは3年生から見られた。また、お互いの立場を意識して自分の役割に応じた英語を使って聞いたり話したりすることも特に4年生以降は意識が高くなっていった。また、場所や状況をとらえて話したり聞いたりすることに対しては、3, 4年生では、あまり意識がなく、高学年で総合的に考えていく傾向にあった。

次に、これまでの授業から、社会言語的能力を発揮していると思われる子どもの様子を洗い出して、先ほどの意識調査とも合わせながら考えてみることにした。

○ 1年「おみせやさん」における子どもの様子



- ALTとJTEが、買い物をしているスキットを見て、“Apple, please.”の表現に気付く。→ ほしい商品をお店のの人に伝える時は、“～, please.”を使えばいいんだな。
 ※ 買い物をするという目的のために必要な英語を使用する。
 ※ その際、学習した英語を使用すること自体が楽しみであり、「お客と店員」という立場から、丁寧な表現を使っているという意識は低いようである。

○ 3年「Tomの学校」における子どもの様子



○ 「英語の授業をしている場面」

↓
 先生役と児童役になりながら、グループでスキットを作る際、これまでの「英会話の時間」の始まりのあいさつの経験や、ALTから聞いた外国の授業の様子の話から、性別や立場を考慮して、名前の呼び方を変えていることに気付いている。

- ※ 男女の違いによる，“Mr. ～” “Miss. ～”
 ※ 発表者を指名する時、先生役は名前で呼ぶ。

○ 4年「Tomの友達」における子どもの様子



○ 「友達を遊びに誘う場面」

↓
 遊びに誘うという目的をもちながら、相手の好きなものを考慮して尋ねたり、相手に対して“Yes/ No.”ではっきり答えたりしている。

- ※ その際、相手に対してはっきり答えることで、意志が通じることのよさを感じている。

○ 6年「とっさのひとこと」における子どもの様子



○ 「バス停で時間を尋ねる場面」

↓
 町で見知らぬ人に声をかける時，“Excuse me.”で切り出す。

- ※ 自分の立場や状況を判断し、相手に対して円滑に話を切り出すことのよさを感じている。

前述の意識調査やこれまでの授業における子どもの様子から次のようなことが分かった。

低学年の子どもたちは、コミュニケーションを図る際、「何をするか」という目的ははっきりもっている。しかし、相手との人間関係や場面の違いを考えて表現するというよりも、まず、目的に応じて自分の考えを表現する傾向にある。中学年以降になると、少しずつ相手との人間関係やコミュニケーションが図られている場面を意識し、自分なりに表現しようとする傾向にある。高学年では、日本人としての自覚が高まり、外国人との違いを考えるようになる。そのことで相手に自分の伝えたいことをより深く理解してもらえたり、場面にふさわしい英語を使ってみたいという欲求が高まったりする。しかし、もち合わせている言語材料がそれを満たすほどのものでないことから、意識と実際の技能との格差が見られる。そこで、高学年の意識に合わせ使用する英語の意味付けを目的や相手、場面から理解させ活動することも重要である。

社会言語的能力を発揮する子どもの姿を発達段階に応じて設定した。

(2) 社会言語的能力を発揮する子どもの姿の設定

以上のことをふまえ、社会言語的能力を発揮する子どもの姿を発達段階に応じて次のように設定した。

〔社会言語的能力を発揮する子どもの姿〕

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
目 的	◎ 伝える目的を考えて目的を伝えるのに必要な英語を感覚的に理解し、その英語をまねて話すことができる。	○ 伝える目的を考えて、目的を伝えるのに必要な英語に慣れて、その英語を使って自分なりに話すことができる。	○ 伝える目的を考えて、目的を伝えるのに必要な英語に慣れて、その英語を使って自分なりに話すことができる。
相 手		◎ 相手の性別や年齢・立場によって使用する英語に気付き、相手に応じた英語をまねて話すことができる。	○ 相手の性別や年齢・立場によって、使用する英語の違いが分かり、相手に応じた英語に慣れて、その英語を使って、自分なりに話すことができる。
場 面	◎は、その時期の重点と重なる社会言語的能力を発揮する子どもの姿		◎ コミュニケーションが図られている場所や状況などから、場面を適切にとらえ、その場面にふさわしい英語が分かり、自分なりにその英語を使って話すことができる。

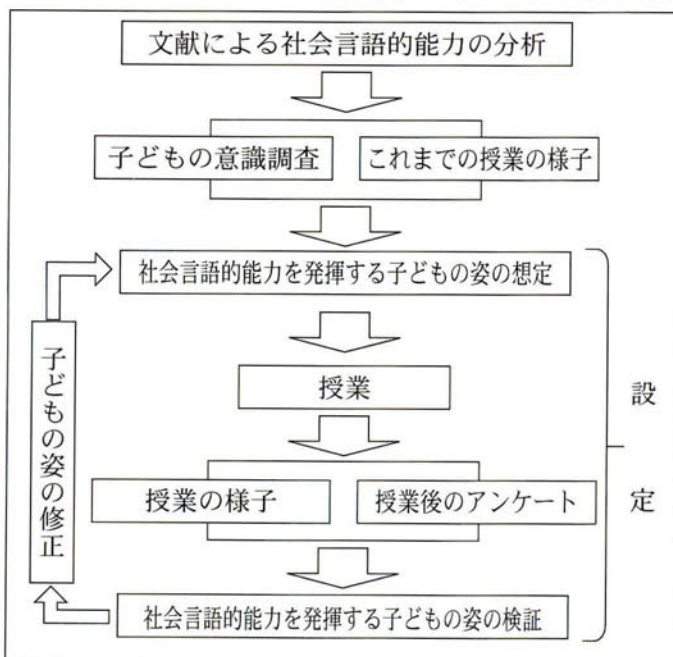
また、これを受けて、目的や相手、場面にかかわる英語を、現在の小学校段階で使用する言語材料に照らし合わせて考えると、次のような言語材料がある。そこで、これらの言語材料は、小学校英語教育で子どもたちが習得する言語材料になると考える。

(社会言語的能力を発揮するにあたって必要な言語材料)

目的に応じた表現に使用する	— ~, please. I'd like ~, please. Do you ~?
相手に応じた表現に使用する	Mr. ~ Miss ~
場面に適した表現に使用する	{ Thank you. Here you are. May I help you?
	{ Yes./ No. Excuse me. You're welcome.

(3) 社会言語的能力を発揮する子どもの姿の設定の手順と方法

想定・検証・修正を行い設定した。



【図5 子どもの姿を設定する手順と方法】

社会言語的能力を発揮する子どもの姿を子どもの発達段階に応じて設定するために、図5のような手順と方法をとった。特に、設定するに当たっては、子どもの意識やこれまでの授業の様子を十分に吟味した。さらに、授業に取り組む際は、各学年で設定した社会言語的能力を、各単元の目標と照らし合わせて設定していけるようにした。

また、検証するに当たっては、「どのような場面で、どのような姿が見られるか」ということを見取るために、コミュニケーションギャップを用いたスキットの提示など、子どもの姿が見られるような活動を位置付けた。

Ⅲ 研究の実際

1 実践の基本的な立場

ここでは、これまでの授業において、子どもたちがどの場面でどのような社会言語的能力を発揮しているのかを見取る。そのために、社会言語的能力を発揮している子どもの姿を想定した授業を行い、検証していくこととする。

- ① 子どもの発言の中で社会言語的能力にかかわるものがあったかどうかを見取る。
- ② 社会言語的能力が発揮されたと見ることができた活動を見取る。

見取るための方法として、コミュニケーションギャップを用いた場面設定を行い、そこに見られる子どもたちの発言を取り上げていくことにした。

2 実践の内容

(1) 第3学年「Tomの学校」における実践

ア 本単元における社会言語的能力を発揮するとは

社会言語的能力を発揮する子どもの姿を次のように想定した。

【発達特性】

- ・ 目的を伝えるために必要な表現に気付き、相手の性別や年齢に応じた表現をまねて話そうとするようになる。

【単元の価値】

- ・ 外国の学校という場面を想定し、その中の授業をするという活動を通して、学校生活の中で交わされる英語を使って表現したり理解したりできる。

【社会言語的能力を発揮する子どもの姿】

- スキットの中で使用される絵カードや実物を基に、外国の学校での授業の様子に気付く子ども
- 教師や子どもという立場をとらえ、それに応じて名前の呼び方を変えて表現する子ども
- 授業の様子が相手に伝わるようなスキットを作る子ども
- 授業を行うスキットを作る中で、ALTやHRT、友達の意見を参考に授業の様子や役割の違いが表れるように修正する子ども
- 学習を振り返る中で、使えるようになった英語や感想を発表して成就感を感じたり、お互いのよさを称賛したりする子ども

イ 単元の目標

- 「外国の学校で勉強してみたい。」という願いのもと、ゲームやスキット作りを楽しもうとすることができる。
- 教師や子どもという立場に応じて聞いたり話したりすることができる。
- 学校生活に必要な英語の表現をジェスチャーや絵、知っている英語を使ってALTやHRTに尋ねることができる。
- 外国の学校の様子を知ることができる。

ウ 社会言語的能力を発揮している授業の様子 (全5時間)

過程	学習活動	言語材料	子どもの思い・つぶやき(C)
意欲をもつ	1 ALTから外国の学校の話聞く。		外国の学校はどんなところかな。 日本と同じ教科がたくさんあるんだね。 外国の授業の様子を英語で表してみたいな。
	2 スキット1を見て場面を想像したり必要な英語に気付いたりする。 ※言語の使用場面	H: Stand up, please. Let's begin our English class. Good morning, everyone. A: Good morning. H: Sit down, please.	英会話の始まりと同じだね。 他の教科も同じあいさつでいいかな。
つかむ	3 外国の授業に必要な英語を用いたクイズやゲームを行う。	○ バスケットゲーム ○ 命令ゲーム	教科や道具の英語を使って楽しいね。
	4 相手に応じて適切に答えるスキット2を見る。	名前の呼び方を意識させるスキット] H: Good morning, everyone. A: Good morning, Mr.(Miss)○○.	先生役の人や子ども役の人の名前はなんて呼べばいいかな。 C1: 私が先生役 C2: ぼくは子どもの役。
挑戦する・広げる	5 全員で同教科(算数)のスキット作りを行う。 H: 1 + 2 = ? A: Yes, I do. H: Mr.(Miss)○○. A: It's 3. H: Very good.		質問に答えている様子を分かりやすく表すにはどうしたらいいかな。 いつもの授業を思い出しながら作るう。
	6 計算問題を間違ったスキット2を見る。 間違えた時は、こう表せばいいんだね。	A: 1 + 2 = ? H: Yes, I do. A: Mr.(Miss)○○ H: It's 5. (わざと間違う。) ※ 他の子が正解を言うためにすぐ挙手をする。 A: Anything else? C: Yes, I do. A: Mr.(Miss)○○. C: It's 3. A: Very good.	分からない英語をどうやって質問しようか。
	7 グループで選んだ教科のスキットを作る。 	【理科の授業のスキット作り】 C1:教師役 C0:子役全員 C1: Stand up, please. Let's begin our science class. Good morning, everyone C0: Good morning, Miss UEDA. C1:「乾電池って英語で何と言うのかな。」 教室にあった乾電池を持ってALTに尋ねに行く。 C1:(乾電池を指しながら)What's this? A: It's a dry battery. C1: Thank you. A: You are welcome. (A)グループ全員に"dry battery"の名前と発音を教える。 (H)実物を使うことに気付いたことを称賛する。	【発表する子ども】
振り返る	8 プレゼンテーションを行い、感想を話し合う。 相手によって呼び方を考えているね。 あの道具の英語が分かったよ。 "Yes, I do."をちゃんと行ってから答えられたよ。 相手に伝わるように大きな声で発表できたね。 指名した子に手を指すと分かりやすいね。	【見る時の観点】 ・声の大きさ・使用する英語 ・表情やジェスチャー	

実践的コミュニケーション能力 社会言語的能力(社) 方略的能力(方)		教師の働きかけ◎HRT ○ALT
(社) ALTから外国の学校の話聞いてから日本の学校との違いを考えた中で、呼び方など英語による表現の違いがないか友達と話し合い自分の考えをもつことができた。		○ 子どもたちに外国の学校への興味・関心をもたせやすくするために、写真や絵カードを用意する。また自分の体験談なども話の中に入れる。
(方) もっと詳しく知りたいと思ったことなどをALTに日本語やジェスチャーを使って質問することができた。		◎ ALTに質問したいことがある子どもに対して、尋ねる方法を考えさせたり、励まして尋ねに行かせたりする。
(社) 先生に「YAMADA」と呼び捨てにすることは適切な表現でないことに気付くことができる。その際、相手の立場に応じて名前の呼び方を考えることの大切さに気付くことができた。	◎ 「Teacher-card」を用意して各自の役割や立場を意識させる。	 <p>【Teacher-cardを付けて指名】</p>
(方) 算数の授業のスキット作りに必要な表現を考えてHRTやALTに尋ねることができた。	◎○ 適切な表現に気付かせるために、わざと呼び捨てをして「おかしいな」というリアクションを行う。	
(社) 挙手をして「答えが分かった。」という自己表現を相手に行うことができた。	◎○ 全員が意欲的にスキット作りに参加できるように、計算記号の読み方や使い方をリズムののって発話させる。	◎○ 答えが分かった時に、そのことをどのようにして教師に伝えればよいか考えさせるために、スキット2の中で、自ら挙手して答えるようにする。
(社) 自分勝手に答えるのではなく、指名されてから発表することの大切さに気付くことができた。	◎○ 子どもたちがすぐに正答を導き出せる問題を提示し、HRTがわざと間違えた後に、誰でも思わず参加したくなるようなスキットを行う。 ○ 指名される前に答える子どもに対して「Wait a minute.」と言い、指名してから答えさせる。	
 <p>【ATLに尋ねる子ども】</p>	(方) C: 「みかんがり」って英語で何と言うのですか。 H: クリス先生に尋ねてみましょう。どういう風に聞けばいいかな。 C: (もぎ取る様子のジェスチャー) H: 何を取るの。C: ミカン H: 英語では? C: orange → ALTへ尋ねに行く	
	(方) C: 先生、英語で「30」は何と言えばいいですか。 H: クリス先生に尋ねてみましょう。どんな方法で尋ねればいいかな。 C: カードを持っていきます。 C: (「30」の数字カードを持って) What's this? A: It's thirty. C: Thank you. A: You are welcome.	
(社) 互いのグループのスキットを見合う中で、今まで学習したことを生かして、教師と子どもの立場を明確にしなが発表することができた。	◎ 各グループ毎に見られる工夫点を明らかにし、子どもたちに紹介する。	 <p>【ATLスキットに参加】</p>
	◎ できた喜びを味わわせるために、学んだ英語が日常でも生かせることを価値付ける。	
	◎ 子どもたちががんばりを称賛するとともに、自分もスキットに参加し、より深まったスキット作りを支援する。	

エ 実践の考察

本実践では、子どもたちから以下のような様子が見られた。

- 自分たちで作ったスキットを見る相手に分かりやすく伝えるにはどうしたらよいか考えることができるようになった。
- 教師と子どもの立場を区別するために、今回は教師役の子に首からカードをつけさせた。教師と子ども、子どもと子どもという場合でお互いをどう呼び合うか考え外国でも立場や性別などによって名前の呼び方に違いがあることを認識できた。
- それぞれが作ったスキットを発表する時に、相手に分かりやすく伝えるにはどのようなことを気を付ければよいか考えるようになった。

以上のようなことから、第3学年「Tomの学校」における社会言語的能力を発揮する姿が見えてきた。社会言語的能力を発揮して学習することで、スキット作りの子どもの意識が高まった。その結果、自分たちで「こんな授業をしてみたい。」というイメージが広がり、方略的能力を使って、分からない英語をALTに積極的に尋ねるようになった。

(2) 第5学年「町に出かけよう」における実践

ア 本単元における社会言語的能力を発揮するとは

社会言語的能力を発揮する子どもの姿を次のように想定した。

<p style="text-align: center;">【発達特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的を伝えるために必要な英語に慣れ、相手の立場や状況に応じて自分なりの表現をしようとする。 	<p style="text-align: center;">【単元の価値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道案内をする場面設定において場所を尋ねたり案内の仕方を示したりする英語の表現を使えるようになる。
<p>【社会言語的能力を発揮する子どもの姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スキットの中で使用される絵カードや地図をもとに、道案内をする様子に気付く子ども ○ 道を尋ねる人と教える人という人間関係をとらえ、相手の立場に応じて分かりやすく英語を使おうとする子ども ○ 道案内の様子がしている人に分かりやすく伝わるようなスキットを作る子ども ○ 道案内を行うスキットを作る中でJTEや友達の見解を参考に修正する子ども ○ 学習を振り返る中で、使えるようになった英語や感想を発表して成就感を感じたり、お互いのよさを称賛したりする子ども 	

イ 単元の目標

- 「英語で道案内をしたい。」という願いのもと、ゲームやスキット、クイズ作りを楽しもうとすることができる。
- 道を尋ねる人と教える人という立場に応じて聞いたり話したりすることができる。
- 道案内の活動を通して、行きたい場所や案内の仕方の英語の表現を、ジェスチャーや絵、知っている英語を使ってJTEや友達に尋ねることができる。
- 方向や店を表す英語を知ることができる。

ウ 授業計画

	学 習 活 動	コミュニケーション能力を発揮する子どもの姿	教師の働きかけ
1/6	1 スキットを見て、道を尋ねたり教えたりする様子に気付く。 2 場面を話し合う。 道案内の様子を英語で表現しよう。 3 建物や店の名前を表す英語を知る。 4 リズムチャンツをする。 5 ストアボムゲームをする。 6 ペアを作って尋ね合う	<ul style="list-style-type: none"> ● スキットを見て、道案内の様子を想像したり、尋ねたいことを質問したりする。(社) ● 場面、状況、目的について推測する。(社) ● 道案内の様子を想像しながら、絵カード、文字と英語とを結び付けて考える。(方) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちに町の建物にはどんなものがあるか興味をもたせるために、黒板にはいろいろな店や建物ののった町の絵を掲示しておく。 ○ 子どもたちに道案内の様子を想像させるために、実際の体験談も入れて話をする。 ○ 後のスキット作りに役立たせるために、子どもが使いそうな英語を意図的に話の中に盛り込んでおく。
2/6	1 道を尋ねるスキットを見る。 2 J T Eとやってみる。 3 リズムチャンツをする。 4 ペアを作って尋ね合う。 5 場所当てクイズをする。	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の立場や役割を意識してゲームやスキットに取り組む。(社) ● 相手に応じた質問の切り出し方を考える。(社) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発音やイントネーションに気付かせるために、チャンツの中でJ T Eでの発音を真似させる。 ○ 地図を用いて、発話と実際の位置関係とを随時子どもたちに確かめさせる。
3/6 〔本時〕	1 方向を表すスキットを見る。 2 J T Eとやってみる。 3 店当てクイズを行う。 4 相手の立場を考えるスキット2を見る。 5 道案内の様子を表すスキットを作る。 6 みんなの前で発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の立場や役割を意識してクイズやスキットに取り組む。(社) ● 相手に分かりやすく方向を伝えるようにする(社) ● 道を尋ねる人と教える人という人間関係をとらえ、相手の立場に応じて分かりやすく英語を使おうとする。(社) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道案内の場面を視覚的にとらえさせるために、黒板に町全体を表す地図を掲示する。 ○ 授業に必要とする英語をJ T Eに質問させる。 ○ 相手の立場を考えて発話することの大切さを考えさせるために、J T Eがいきなり道を尋ね相手が不機嫌な表情をしてみせる。
4/6	1 道案内をするスキットを見る。 2 J T Eとやってみる。 3 店探しゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> ● 分からない英語についてジェスチャーや挿し絵等を用いてJ T Eに聞こうとする。(方) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちが地図作りをスムーズに行えるように、作製の方法と手順を示す。
5/6	1 発話を広げるスキットを見る。 2 地図を自分たちで作る。 3 J T Eや友達に店や尋ね方、案内の英語を聞いて、付け加える表現を考える。 4 自分たちで作った地図をもとにして、道案内のスキットを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 道を尋ねる人と教える人という人間関係をとらえ、相手の立場に応じて分かりやすく英語を使おうとする。(社) ● 道案内の様子が見ている人に分かりやすく伝わるようなスキットを作る。(社) ● 道案内を行うスキットを作る中でJ T Eや友達の意見を参考に修正しようとする。(社) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発話を広げさせるために、今までのスキットに加えて"Excuse me."や"O.K."を用いてその意義を考えさせる。 ○ 今までに学んだ店や建物を表す英語を用いて地図を描くことができるように、黒板に大きな地図を掲示しておく。 ○ 自分が実際に地図上でどのように動くか考えさせるために地図上で動かすコマも作成させる。
6/6	1 自分たちで作ったスキットのプレゼンテーションを行う。 2 プレゼンテーションを観た感想を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ● どのようなことに気を付けてスキットを作ったのか、質問したり答えたりする。(社) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語を使って表現することができた喜びや成就感を養わせるために、学習を振り返る中で、使えるようになった英語や感想を発表させる。 ○ 自己評価カードを用意し、観点ごとに振り返らせる。

エ 社会言語的能力を発揮している場面の実際の様子 (本時 3 / 6)

過程	学習活動	言語材料	子どもの思い・つぶやき(C)
意欲をもつ	1 道案内をするスキットを見る。	<p>【スキット1】</p> <p>A: Excuse me? J: May I help you? A: Where is the fish shop? J: Go straight. Turn left.</p>	<p>今日はどんな場面かな?</p> <p>道を教えているみたいだな。</p>
	2 JTEとスキット1に取り組む。	<p>Where is the ○○? Turn left (right) at the ○○. It's next to the ○○.</p>	<p>マンホールに落ちないでゴールを目指そう!</p>
つかむ	3 リズムチャンツを行う。	<p>《rule》</p> <p>① スタート位置を決める。 ② 目的地(店)を決める。 ③ 目的地までの行き方を英語で伝える。 ④ 相手がマンホールに落ちないように道案内をする。</p>	
	4 マンホールゲームを行う。		
挑戦する・広げる	5 相手の立場を考えるスキット2を見る。	<p>道を尋ねることは同じだけれど何か違うな。</p>	<p>【ゲーム中の子どもたち】</p> <p>なぜ不機嫌なのかな。</p> <p>自分だったらどんなことに気を付けるかな。</p>
	 <p>Where is the fish shop?</p> <p>不機嫌な表情</p> <p>どうしてかな?</p> <p>いきなりじゃないかな? 失礼じゃないかな? まず“Excuse me.”を使ったらよかったのでは? ジェスチャーや絵を使って尋ねたらよいのでは?</p>	<p>なぜそこへ行きたいかよく分かるね。</p>	
	6 道案内の様子を表すスキットを作る。	<p>【子どもが作るスキット例】</p> <p>C1: (お腹を抱えるジェスチャーをしながら) I'm hungry. I want to go to the restaurant. C1: (通行人を見付けた様子のジェスチャーをして) Excuse me. C2: May I help you? C1: Where is the restaurant? C2: Go straight. Turn left at the bakery. It's next to the toy shop. C1: O.K. Thank you very much. C2: You are welcome.</p>	<p>【スキット作り】</p> 
振り返る	7 Presentation (作ったスキットの発表)	<p>【見る時の観点】</p> <p>・場面設定・使用する英語 ・表情やジェスチャー</p>	<p>相手の立場を考えて話そう。</p> <p>今、どこにいるかをはっきりさせた方がいいね。</p> <p>その場所に行く目的がはっきり分かるね。</p> <p>尋ねる相手の様子がよく分かるね。</p>
	8 Reflection (学習の振り返り)	<p>相手に尋ねる時は、尋ねていい時かどうか考えないといけないね。</p>	<p>【地図を使ってスキット作り】</p> 

実践的コミュニケーション能力	社会言語的能力 (社)	方略的能力 (方)	教師の働きかけ
<p>(社) スキットの中で使用される地図や道具を基にして、道案内をする様子に気付くことができた。</p>	<p>◎ 子どもたちに場面の様子を視覚的に想像させるために、町全体を示す地図を用意し、黒板に掲示しておく。</p>		
<p>(社) 道を尋ねる人と教える人という人間関係をとらえ、相手の立場に応じて分かりやすく話すことの大切さに気付くことができた。</p>	<p>◎ 道を尋ねる人の言動を行う。 ◎ 分かりやすく丁寧に教えるように発話する。</p>		
<p>(方) リズムにのってうまく言えなかった英語を絵カードを示しながら尋ねに行くことができた。</p>	<p>◎ リズムにのって楽しく自然に英語の表現を発話させるために、リズムボックスや発話する内容の絵カードを用意しておく。</p>		 <p>【ゲームの説明】</p>
<p>(方) 道案内に必要な表現について分からない英語を、ジェスチャーや地図等を使ってJTEに尋ねに行くことができた。</p>	<p>◎ 子どもたちが分からない英語を尋ねやすくさせるために、地図や絵カードを用意しておく。</p>		
<p>(社) その場所へ行く目的を明らかにし、どのような場面設定でスキットを作っていけばよいか考えることができた。</p>	<p>◎ 相手の立場を考えて発話をすることの大切さに気付かせるために、JTEがスキット2でいきなり道を尋ねることを始めて相手が不機嫌そうな表情をしたことを表現する。その理由を子どもたちに考えさせる。</p>		
<p>(社) 相手の立場をとらえてどのような尋ね方をしたらよいか考えることができた。</p>	<p>◎ より詳しい道案内ができるようにさせるために、前時までに学習した "across from~" や "at the ~ corner" などスキットに取り入れさせ、それらを用いて会話表現が広がることに気付かせる。</p>		
<p>(社) JTEや友達からの意見を参考にして、スキットを修正することができた。</p>	<p>◎ 道を尋ねる時のマナーや相手の立場を考えて "Excuse me." や "Thank you." などの表現を取り入れている子を称賛する。</p>		
<p>C1: 図書館へ行くスキットを作りたいけれど、図書館って英語で何というのかな? (方) C2: たくさん本があるところだから、"Many"" Book"がキーワードかもしれないね。 C1: What is the "Many" " Book"? J: It's the "library". C1: O.K. Thank you very much. J: You are welcome.</p>			 <p>【分からない英語をJTEに尋ねに行く子どもたち】</p>
<p>C1: (右へ体を向けるジェスチャーをしながら) (方) What's this? J: Turn right. C1: I see. Thank you very much. J: You are welcome.</p>			
<p>(社) 道案内の様子を表すスキットを、見ている人にも分かりやすく表現しようと工夫することができた。</p>	<p>◎ 学び得たことを生かしたスキットを作ることができた成就感や満足感を味わわせるために、発表の場を設け、各自の工夫した点を称賛する。</p>		
<p>(社) 使えるようになった英語や感想を考えて、本時の学習に対する成就感や相手のよさ等を表現することができた。</p>	<p>◎ 本時の学習を振り返らせる中で、お互いのよさに気付かせるために、今日の学習で楽しかったことや分かったこと、初めて知った英語のこと等を発表させる。</p>		

オ 実践の考察

本実践では、子どもたちから以下のような様子が見られた。

- スキットを作る時には、目的地へ行く理由（目的）を明らかにしてから発話することの大切さを考えるようになった。
- 道を尋ねる時には、尋ねる相手の立場を考えてどのように話しかけることで失礼でなくなるかということ意識するようになった。
- どのような場面で道案内が行われているか、スキットを見ている人に分かりやすく伝えるために、小道具や地図、絵カード等を活用するようになった。

以上のようなことから、第5学年「町に出かけよう」における社会言語的能力を発揮する姿が明らかになってきた。自分たちで「〇〇のために□□へ行きたい。」「相手がよく分かるように道案内をしよう。」という意欲をもち、方略的能力を使って、分からない英語を積極的にJTEに尋ねるようになった。また、見知らぬ人に道を尋ねる時、相手の状況を考えてうまく話を切り出せるように“Excuse me.”を用いて話しかけるようになった。さらに、行き方が分かった時は、“Thank you.”や“You are welcome.”という会話が自然に行われるようになった。実際のコミュニケーションに結び付ける授業を展開することができ、第3学年と比較すると、学年が上がるにつれ、「目的」「相手」「場所（状況）」という観点をもっている子どもたちが多く存在することも分かった。

IV 研究の成果と課題

本年度は、「生きたコミュニケーションを楽しむ英会話授業の創造」の3年次として「社会言語的能力を発揮する子どもの姿の設定」というサブテーマを設けて研究を進めてきた。

本年度の研究を進める中で、次のような成果と課題が明らかになった。

1 研究の成果

- 本校における社会言語的能力を明らかにすることができた。
- 分析した社会言語的能力をもとに、子どもの発達段階に合わせて、社会言語的能力を発揮する子どもの姿を設定することができた。

2 今後の成果

- 設定した社会言語的能力を発揮する子どもの姿をもとに、学習内容を設定し、各学年の各単元毎にさらに具体化していく必要がある。
- 方略的能力、社会言語的能力を発揮する子どもの姿から、小学校英語教育に求められる英語活動の在り方をより明確にしていきたい。



【参考文献】

- | | | |
|---------------------------------|--------|---------------|
| 「英語の使用場面と働きを重視した言語活動-指導と評価の実際-」 | 田中正道編 | (2005年 教育出版) |
| 「英語教育用語事典」 | 白畑知彦他著 | (1999年 大修館書店) |
| 「英語コミュニケーションの指導」 | 高梨庸雄著 | (1997年 研究社出版) |